

令和7年度第三者評価 改善状況報告書

令和8年5月29日

施設名	神応保育園	施設所管課	高輪地区総合支所管理課
所在地	白金6-9-5 神応ほっとプラザ1~2階	指定管理者	株式会社アソシエ・インターナショナル

改善すべき指摘内容等	対応事業者 (共同事業者の場合記入)	令和8年3月までの改善状況等 (指定管理者記入欄)	令和8年4月以降の取組予定 (指定管理者記入欄)	所管課確認欄 (施設所管課記入欄)
<p>子どもが自分で好きな遊びを選んで遊び込める環境をつくり、子ども主体の保育をさらに充実させていくためには、計画の立案、ねらいや保育・支援の意味、記録の取り方、子どもの行動の理由等を再考し、全職員が共通理解を深め、子どもに関わっていくことが有効である。園としても、これまでの振り返りを活かし、新たな視点で保育のねらいを持って活動を組み立てられるようにしていく意欲を持っている。子どもと共に取り組みを楽しみ、職員自身が成功体験を積み上げ、子どもを見る目を確かなものとして保育力の向上を目指していくことを課題としている。</p>		<p>保育の振り返りは保育者自身が成長するために欠かせないものとし、改めて意識するようになりました。その中でマイナス面ばかりを見るのではなく、「楽しかったこと」や「できるようになったこと」など子どもたちを更に伸ばすような振り返りを心がけるようにしています。</p> <p>また、職員同士でも「助かった場面」を意欲的に伝え合うようになりました。感謝の言葉を増やし、成功体験を共有することで職員自身の自信となるようにしています。</p> <p>次の保育につなげられる振り返りを意識し、それをもとに保育を行うことができるようになってきていますが、まだ多くの課題が残っています。次年度も引き続き課題に取り組み保育力の向上を目指していきます。</p>	<p>明日の保育につながる振り返り</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 振り返りのポイントを整理し周知する。</li> <li>2. 日々の振り返りを職員間で共有する。</li> <li>3. 振り返りを基に計画を立案する。</li> </ol> <p>等、意識して「振り返り」を行っていきます。また、振り返りを充実させるために保育者が主体的にコミュニケーションの場が作れるように工夫していきます。</p>	<p>子ども主体の保育の充実に向け、振り返りの強化や職員間での意識共有に丁寧に取り組んでいます。また、子どもの成長に目を向け、それを職員間で共有することは、保育の質の向上だけでなく、職員同士の前向きな関わりや意欲の醸成にもつながります。</p> <p>引き続き、振り返りの内容を整理し、保育計画の立案や日々の実践により、保育の質のさらなる向上につながることを期待したい。</p>
<p>ヒヤリハット事例が起きた際は、確立された手順に則り、クラスで振り返りを行い、改善策を検討し、園全体の危機意識を高め、再発防止を図っている。事例をより活かしていくためには、検証に加え、保育環境が子どもの発達と見合っているか等、多角的な視点で分析するなど、リスク自体を広い視野、多様な視点から捉えてアプローチしていくことが有効である。安全に関する各計画と個々の職員の行動を連動させていくことを含め、今後も引き続き、安全な保育環境の維持・向上に取り組んでいくことを課題としている。</p>		<p>ヒヤリハット事例が起きた時は、日々のクラスミーティングで周知し、改善策を検討しています。ただ、保育の忙しさから、ヒヤリハットが上がらない状況が多くあるため、その対策を考え、職員会議等で時間を作り共有、再発防止を図るようにしていきます。保育環境はクラスミーティング等で話し合い、見直しをするようにしています。</p> <p>ヒヤリハットは職員により、捉え方の差があるため、その感覚を統一することに難しさを感じています。</p>	<p>ヒヤリハット事例が起きた後、クラスミーティングで振り返り、改善策を検討していますが、全体の職員会議で事例が上がるのが少ないため、安全管理部門の職員を任命し、その職員を中心に園として改善策を考える仕組みを構築します。</p> <p>また、年間で作成している安全計画の内容について、改めて周知し、職員間の共有事項とします。</p>	<p>ヒヤリハット事例の周知や共有方法、改善策の検討について工夫を重ね、職員間の認識の統一を図っています。引き続き、安全に対する意識を向上し、保育環境の見直しに活かしていくことで、より安心・安全な環境づくりが進められることを期待したい。</p>
<p>園での生活や行事に触れ、参加した地域親子が園児と触れ合う様々な子育て支援事業に取り組んでいる。保育士の様子を見て園の良さを体験してもらい、各専門職が保護者の悩みに向き合い適切に助言できるよう門戸を広げている。園としては、さらに近隣の関係施設と連携を図り、地域の現状や子育て世帯のニーズを探り、適切な支援を考えていく必要がある。それぞれの職員が子育て支援事業を自分事として捉え、個人または園としてできることを再考し、子育ての悩みや不安を安心に変えられるよう、引き続き取り組んでいくことを課題としている。</p>		<p>「保育園であそぼう」（年9回開催）は地域親子を対象としているため、広告を掲示し、一時保育利用の方に見ていただけるよう、保育室前に掲示しています。</p> <p>また、参加可能な園行事も加えて、保育園を体験できるようにしました。</p>	<p>地域親子を対象とした子育て支援事業は、参加人数が少なく、広告の掲示やHPへ掲載しても改善が見られないため、園見学の際、質問を含め、ご希望があれば子育てに関して等の話ができるような時間に変更することを検討しています。合わせて「保育園であそぼう」園庭解放等の案内をしていきます。</p>	<p>地域との関わりを大切にしながら継続して子育て支援事業に取り組んでいます。今後は、「保育園であそぼう」の周知方法の工夫や、引き続き近隣関係施設との連携を強化することで、より多くの方の利用につながることを期待したい。</p>